

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°29 カリーム・ヴィオネ

生産地方：ボジョレー

新着ワイン 1 種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ キュヴェ デュ・ブール・ダン・レ・ピナル 2016 (赤)

2016年は、6月24日にフルーリーからムランナヴァンまでを襲った雹に当たり、収量が30%減だった。雹に当たりストレスを受けたブドウは収穫の際、熟しがまばら状態だったが、結果そのことが功を奏し、アルコール度数12%の弾けんばかりのチャーミングなヴァン・ド・ソワフが出来上がった！発酵は22度前後で温度管理をし、ピュアな果実味に線の細い上品な酸と骨格のあるミネラルが溶け込んでいて、艶っぽい雰囲気を持っている！

ミレジム情報 当主「カリーム・ヴィオネ」のコメント

2016年は雹に見舞われたとても厳しい年だった…。5月28日と6月24日に2度雹に当たり、KVのランシエの畑は70%被害に遭った。雹以外にも、春から初夏にかけて雨が多かったため、ミルデューが猛威を振るった。開花はまばらで終了するまでに10日以上もかかった。だが8月に入ると天候は回復。成長にブレーキがかかっていたブドウも一気に成熟を早めた！それでも途中日中の気温が40℃を超える猛暑による影響で、一部西日の当たる側のブドウが焼けて湯き落ちたり、暑すぎてブドウの成長にいったんブレーキがかかることもあった。雨が降らないのにミルデューの勢いは8月まで続き予断の許さない状態だったが、ボルドー液の散布を的確に行い、何とか凌ぐことができた。9月の収穫は、ブドウの成熟がバラバラで、ひとつの木に潜在アルコール度数が14度を超える完熟しきったブドウと11度も行かない未熟なブドウが同時になっているものが多かったが、酸の釣り合いを考えて完熟しきっていないブドウも全て収穫し、最終的に中身のあるバランスの取れたワインに仕上げることができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

これは去年2016年の雹にやられたランシエのブドウの木の写真だ。(写真①) 枝のえぐられ方を見ると、雹の被害の結果がどれだけ惨憺たるものだったかが良くわかる。これだけのインパクトがあると、さすがにブドウの樹液は循環が悪くなり成熟にブレーキがかかる。一方で、雹に当たらなかったブドウは通常通り成熟し、これが一つの木でブドウの成熟が各自バラバラという現象を生む。カリーム曰く、2016年は幸い夏が猛暑で、結果的にブドウの超熟と未熟が同時進行し、このまばらな熟し度合いがワインに最高のバランスをもたらしたが、これがもし冷夏だった



写真① 雹のダメージを受けた枝

らどうしようもないワインになっていたであろうとのこと。

次は、カリームが冗談でKVのエチケットのポーズを決めてくれた写真。(写真②) トルメーのエチケットには右肩に刺青が入っているが、実際の本人は肩に刺青はない。

彼は2年前に資金難により民事再生法を申請していたが、どうやらそれ以降、彼のたゆまぬ努力もあり、今は業績もV字回復！ドメーヌの危機どころか、現在はワインの売り上げも絶好調！カリーム



写真② ラベルと同じポーズをとるカリーム

のワインが今あらためて注目されている！トルメーのエチケットが功を奏したのか、とにかくイメージ・チェンジ以降、北欧やアメリカ、カナダに引き合いが強いようだ。

そんな乗りに乗ったカリームの次なる挑戦は…何とモロッコに畑を持つこと！？最初は冗談かと思いきや、当の本人は結構真剣に考えている様子。今年の2月にシエナの畑の所有者と二人で初めてモロッコに旅行に行き、そこでブドウ畑を見た時にそう思ったそうだ。彼の話だと、ブドウ畑はバニユルスのように海に面した段々畑になっていて、気候も乾燥しており、ビオロジックにとっても適しているということだ。何よりモロッコはフランスよりも物価が安いことが魅力で、ドメーヌの施設を整えれば、後は人件費などの経費はフランスの半分以下で済むそうだ。来年初めに再び二人でモロッコに下見に行って、それから考えるという事だが、もちろん簡単に決断できるレベルの話ではないだろう。今後の展開に興味津々だ！（というより戦々恐々かも）

(2017.6.13.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ